

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372601221
法人名	社会福祉法人 久仙会
事業所名	グループホーム たしま友遊苑
訪問調査日	平成 20 年 2 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 25 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	4372601221		
法人名	社会福祉法人 久仙会		
事業所名	グループホーム たしま友遊苑		
所在地	熊本県菊池市泗水町田島616-1 (電話) 0968-38-7147		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	3月25日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1000 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岸病院 長野歯科 菊池有働病院 国立菊池病院 西合志病院 岸眼科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

沖縄の社会福祉法人を母体としたホームは、近くの保育園や小学校との相互交流が行われ、子どもたちの笑い声が入居者に活力を与えている。ゆっくりとした日常生活の中に、軽体操や生活リハビリとしての家事、認知症進行防止に工作や書道を取り入れている。入居者は高齢化・重度化が進んでいるが、単独のホームにも関わらず協力医院、相談員、家族と全職員が連携してターミナル期のケアに取り組まれている。定例化した運営推進会議では委員の意見を真摯に受け止め様々な改善策を講じ、ホームの運営状況全て(会計も含む)が報告されており、透明性のあるホームであることは大いに評価したい。今後も地域の中での生活拡充や地域との関わり方を検討されることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム長は第三者の目を通した評価により、職員が改善に向け研鑽するツールとして捉えている。昨年度の評価結果は指摘事項について改善方法を協議し、運営推進会議で報告している。指摘事項のひとつリビングの掲物の指摘に対して、フレームに入れ階段へ掲示するなど空間を利用し季節感を出している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価作成にあたり、3日間の交代勤務の中で話し合い、ホーム長、管理者、職員の意見が集約されている。自己評価で見出された課題についても改善計画を作成し、改善に向け真摯に取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を定期的に開催し、入居者の外泊・外出状況、病院受診状況、事故報告、レク活動報告(合同・個別)等の状況等資料を作成し報告している。外部評価結果も取上げ改善方法を協議し、委員からの質問内容が集約され、ホーム運営に反映している。家族からの意見の一つ、会計が不明瞭との指摘により、運営推進会議で利用料金と実費負担金を月毎に報告するに至っている。不参加の家族に年度の総括資料を送付している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月請求書送付時には友遊通信を添え、領収証送付時には行事予定等の掲載と職員が個々の様子を手書きし送付している。個別の預かり金制度は行っていないが、利用料金及び実費負担金は運営推進会議で配布し明瞭化が図られている。特変時や緊急時には随時電話で状況報告を対処している。家族の訪問時に相談等に応じているが、苦情等は出てきていない。外部評価のアンケートの結果や運営推進会議の中で出た意見をもとに検討していく意向である。ホームの苦情相談窓口責任者や公的機関も重要事項の中に明記している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p>
重点項目④	<p>隣接した温泉施設や団地などにチラシを配布し、ホームの認知度向上を図り、ホームの地域交流広場を自治会会場と開放して。近くの保育園や小学校とお互いの訪問を通して交流が図られている。地域交流フェスタへの参加やボランティアによる踊り等も交流の一環としている。管理者はネットワーク菊池の会のメンバーとして地域活動に参加されており、更に近隣との関係を改善されることを期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の他、18年度より独自に“地域(人)に愛されるホーム”を理念として追加している。地域に根ざすべく、入居者には優しく接する事を念頭に地域の中で、愛し愛される関係を作り、根ざしたいと努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長は理念の意義について明確に理解し、定例申し送り時、事例を通して指導している。理念は玄関入口に掲示し、訪問者への啓発としている。職員は理念を日々の規範として、その実践に向け真摯に取り組んでいる。	○	理念が具体的な支援に繋がるような取り組みや地域への啓発活動を続けていただきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接した温泉施設や団地などにチラシを配布し、ホームの認知度向上を図り、ホームの地域交流広場を自治会会場として開放している。近くの保育園や小学校とお互いの訪問を通して交流が図られている。地域交流フェスタへの参加やボランティアによる踊り等も交流の一環としている。管理者はネットワーク菊池の会のメンバーとして地域活動に参加している。	○	ホームの地域交流広場を自治会会場に提供したり、社協との連携で家庭介護教室としても使用されており、入居者の身体的レベルや認知症レベルが高く、地域行事への参加は困難な状況にあるが、できる事をできる時にできる入居者とともに更に地域の中に入る工夫を検討していただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長は第三者の目を通した評価により、職員が改善に向け研鑽するツールとして捉えている。昨年度の評価結果は指摘事項について改善方法を協議し、運営推進会議で報告している。指摘事項のひとつリビングの掲物の指摘に対して、フレームに入れ階段へ掲示するなど空間を利用し季節感を出している。今回の自己評価作成にあたり、3日間の交代勤務の中で話し合い、ホーム長、管理者、職員の意見が集約されている。自己評価で見出された課題についても改善計画を作成し、改善に向け真摯に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、入居者の外泊・外出状況、病院受診状況、事故報告、レク活動報告(合同・個別)等の状況等資料を作成し報告している。外部評価結果も取上げ改善方法を協議している。委員からの質問内容が集約され、ホーム運営に反映している。家族からの意見の一つ、会計が不明瞭との指摘により、運営推進会議で毎月の利用料金と実費負担金を月毎に報告するに至っている。不参加の家族に年度の総括資料を送付している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者は運営推進会議の委員として参加している。実践者研修等の申込において市担当者に相談し理解が得られ3人の職員が研修へ参加している。行政や近隣病院の有志でグループネットワーク菊地の会が発足し、ホームも参加し質の向上を図っている。	○	今後評価結果等提出時等を通じて市担当者との意見交換など更に密な関係が構築できる事を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書送付時には友遊通信を添え、領収証送付時には家族と顔馴染みのケアをしていきたいと職員の意見から行事予定等を掲載し職員が個々の様子を手書きし送付している。個別の預かり金制度は行っていないが、利用料金及び実費負担金は運営推進会議で配布し明瞭化が図られている。特変時や緊急時には随時電話で状況報告をし対処している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に相談等に応じているが、苦情等は出てきていない。外部評価のアンケートの結果や運営推進会議の中で出た意見をもとに検討していく意向である。ホームの苦情相談窓口責任者や公的機関も重要事項の中に明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を正社員とする事で就業不安解消としている。入居者の状態等からユニット間の異動は行われているが、全入居者の状況把握に努めているため、ダメージも無く、又離職による新規採用の場合は1ヶ月前に雇用し、業務研修期間を設け、1対1でのシフトを組み業務を把握し、入居者との顔馴染みの関係構築に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長は、若い職員が多く将来も見据え資格取得により、ステップアップに繋げ長続きする仕事として捉えてほしいと働きながら学ぶことを奨励している。県主催の“きくちゃん体操”の研修や介護セミナー等によりレベルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	菊池郡市福祉施設連絡協議会に加入し、グループホーム研修会にの参加により交流促進に繋げ、情報交換や問題点を見出し見学会や介護実務の研修等により質の向上に努めている。研修会場としてもホームを提供している。ホーム長が講師として小学校の先生向けに認知症・グループホームの実態の勉強会も行われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から状況を聞き、重要事項を簡潔に説明し、入居決定日までに住環境を家族に作ってもらおうようにしている。又、無料でデイサービスとして2週間ほど利用しされ安心して入居された方もおられる。家族との相談と協力を得、入居時間の工夫やコミュニケーションを取りながら、徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時には職員が助けてほしいと声かけしたり、一部分(洗濯物が乾いたかどうかの判断等)でも役割をつくり、ともに助け合いながらの生活となっている。調理などでは助言が得られ、職員も感謝の心をもって受け入れている。今後もゆとりあるケアの実践に取り組む意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで得た情報の他、家族の意向を第一に、日常生活の中でやりたい事や不満などをさりげなく聞き、困難の場合には本人の表情や行動から察知するように努めている。家族との関係再構築に力を入れ、家族の協力を得ることで入居者の生活の張り合いとなって表れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居相談時のアセスメントにより情報を把握し、本人・家族の意向や要望を踏まえ、ADLに沿って入居者本位の介護計画が作成されている。	○	家族にはプランの説明がされており、今後は説明時に押印やサインを得ることが求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意向に基づき定期的な見直しの他、毎朝の定例会議においてケア方法の変化がある場合にはプランに朱書きで追加ながら、現状に即した介護計画としている。終末期ケアも行われており、特に家族や病院、相談員等との協議の上、新たなプランを作成し、実情に合う記録方法も採用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診を職員が行い、受診に合わせ自宅訪問を取り入れたり、買物への同行や月2回は外出の機会を作っている。ホームの地域交流広場を自治会会場としての提供や、地域住民向けに無料のデイサービスも行われている。日々の健康管理や充実した記録により医療との連携を図り、継続した生活を支援しており、ホーム機能を柔軟に活かした取り組みとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	精神科医等専門分野はもともとのかかりつけ医であるが、それ以外は往診可能な協力医療機関となっている。協力医療機関と連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。ターミナル期の入居者もおられ、点滴往診等で対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を踏まえ、希望がある場合には最期まで支えておられる。病院担当相談員の考え方、ホームの考え方等家族と協議し、協議書を作成し、状態に応じてターミナルケア協議書を再作成され、消防署に協力要請もされ(看護要約サマリーや協議書を提出)、ケアプランも作り直し、家族より同意書を交わし、連絡体制方法も作成し、家族とホームが一丸となって看取り支援されている事が記録物等からも垣間見ることができた。単独のホームとして出来得る最善を尽くされている。	○	左記の経験がモデルケースやマニュアルとなり職員の自信に繋がっており、重度化の入居者が多く、今後も早い段階から家族と話し合い継続した生活を支えていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自然な声かけや目上であることを念頭に、尊敬の態度で接するようにしている。訪問時トイレのドア越しに待っている職員からもプライバシーが守られていることが窺われた。記録も一人にワンシートとし、個人情報の漏洩には十分な配慮が取られ、実習生の受入れも有り、守秘義務の誓約書を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的生活のリズムはあるが、入居者の体調やペースに合わせた生活支援である。その日の気分や体調により、起床就寝時間や入浴時間等希望にそって支援している。自立されている入居者は、交流広場の喫煙所に行き来し喫煙されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニット毎に異なった献立は料理本を一緒に見たり、入居者の嗜好を取り入れバランスの良いメニューとなっている。天気の良い日には一緒に買物に行ったり、食材の下ごしらえや片付け等と出来る力を発揮させる場面を作り、職員は介助の必要な入居者の横で会話を引き出しながら和やかな食事を支援している。食卓の位置も入居者の状態によりレイアウトを変更し、時には食事レクとして焼きそばやお好み焼き等も取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自立された入居者や意思表示される入居者は希望に応じ入浴支援が行われ、全介助や同姓介助希望の入居者には職員の配置時間により入浴が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の手伝いや簡単なふき掃除、うさぎの世話等個々のレベルに応じた役割をもって生活してもらうよう支援している。毎日身体に無理のない程度の体操や嚙下体操を取り入、塗り絵や書道会を開催したり季節に応じた外出等を計画し楽しんでもらうようにしている。町の文化祭にホームの作品が展示され、自信や満足感へと繋がっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や気温により外出することし、温かくなると車椅子も使用しグループで散歩したり、家族の訪問時の散歩や、一人でホームのプレートを下げて一時間も散歩される入居者もおられる。(名札プレートの件については家族の同意を得ている。)ピクニックや花見等季節に応じた外出が年間計画に組み込まれており、楽しみごとの一つとなっている。	○	個々の希望に応じた外出は重度化の入居者が多く難しいようであり、家族への協力を得る努力は続けていただきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけないケアの意義を理解しており、居室の鍵は本人に任せているが、ユニットの入口と玄関が離れており、危険防止のため、外からは自由に入れるが内からは電気ロックされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	19年度の防災訓練は今のところ行なわれていない。全電化システムと非常通報装置、自動火災報知器、誘導灯、消火器等整備され有事に備えている。	○	今後も定期的な訓練と地域との関係構築により協力が得られることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食摂取量を記録し、体重管理表で1Kg単位の増減に処置方法を検討し、個々に応じた支援をしている。水分確保として、常時麦茶を用意し、適時対応している。特にターミナル期の入居者に対して介護記録を見ると、日々変わる状況に対応されている事が食事形態、補助食品等詳細な記録より窺われる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前は花壇やプランターに季節の花を植え、各ユニット毎に入居者の心身の状況に応じレイアウトした共有空間は明るく、トイレ等も異臭も無く、壁面には入居者の作品や季節に応じた飾り等により季節感ある雰囲気である。隣接の保育園児の屈託のない笑い声等も入居者にとって活力を与えている。玄関横の地域交流広場には開設時からの写真“友遊苑フォト・ライブ”が置かれ、入居者が思い思いに過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者の身体機能に応じ、管理者が立ち上がり易いような柵を作り、ポータブルトイレまでの動線を考えたり、居室のドアが圧迫感を感じられる時はカーテンとする等個々に対応している。馴染みの物を使用されるよう入居時に説明されており、使い慣れた筆筒や生活用品が持ち込まれている。	○	居室は個々の安らぎの場であり生活の場であることを理解し、今後も継続して整理整頓に努めていただきたい。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人久仙会 たしま友遊苑
(ユニット名)	1Fユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県 菊池市 泗水町 田島 616-1
記入者名 (管理者)	谷口 勇一 (ホーム長)
記入日	平成19年12月25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自に「地域(人)に愛されるホーム」を理念として心がけてきた。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービス事業所として、地域に根ざした事業所になるよう、独自の夏祭りを開催するなどして、地域交流に努めてきた。特に、保育園・小学校児童との交流には、学校長先生や保育園長先生の協力を頂いた。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関入口に、理念はもとより、重要事項説明書の掲示を行うとともに、毎月の行事計画も展示して周知に努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	温泉施設の方や、団地の方などの挨拶に心がけている。独自の夏祭りには、チラシを団地内の各家庭へ配布し、たしま友遊苑の認知度向上・地域交流に努めている。	団地の方には、あまり興味がないようでなかなか、お茶のみに立ち寄るとか気軽な来訪にはなっていない。また、玄関口に地域交流広場を設けているが、レク活動以外時は、無人となるため、立ち寄り難い面があるのかもしれない。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域交流広場を自治会会場として提供している。また、来訪者にはお茶などのサービスを行っている。地域行事には可能な限り利用者を伴って参加している。また、パチンコ屋さんのボランティア案内でパチンコ祭りには、現役当時大好きだった利用者に参加して頂いた。	身体的レベル・認知症レベルで全ての利用者・職員が地域行事に参加することができない。また、小規模での交替勤務では、地域行事参加に対して弾力的な対応(職員配置勤務表と行事案内のタイムラグ)は困難である。
6	<input type="checkbox"/> 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域社協との連携で家族介護教室への会場提供及び参加をしてきた。新たに発足される地域支援活動の発足セミナーに参加してきた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価勉強会を行い、全ての職員の意見反映及び意見集約・運営者から見る評価の協議を行った。また、改善項目は、運営推進会議にも図り、可能なものについて改善するよう努めてきた。</p>	<p>○</p> <p>経費が発生するものは、家族負担ともなり、できない面がある。運営推進会議への家族参加と、改善すべき問題点の家族共有が課題である。(部屋が散らかっている・収納ケースが不足・購入には経費がかかる・同意が得られない・居室内の立入を拒む利用者等の課題) 家族からの協力及び家族への働きかけに努力したい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営会議では、サービスの内容を詳細な資料として作成配布して話し合っている。また、外部評価結果・指摘事項・改善項目・外部評価時の様子など、運営推進会議で報告し、家族意見も集約した。</p>	<p>スタッフ数の限界・家族からの意見が少ない(遠慮されている)などで、全てをくみ上げてサービス向上に活かされるとは限らない。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に行政担当者も構成委員になってもらっている。可能な限り行き来するよう努めている。また、指定研修の申込には、行政サイドに相談にのって頂き、協力と理解を頂いている。</p>	<p>運営者・管理者を含む全ての職員が介護業務を兼務しているため、窓口となっていていつでも動ける環境にない。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>運営者が相談窓口となっている。成年後見人制度手続の相談があれば協力する姿勢でいる。</p>	<p>家族の相談内容によっては、成年後見人制度活用よりも手続き上、「委任状」で可能なものは文書作成を協力した。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会・セミナーがあれば積極的に参加を促す。特に、管理者や相談員の職責にいる者は現場責任者であることを自覚し、注意するよう促している。</p>	<p>○</p> <p>職員にその気持ちがあるわけではなくても、言葉の暴力につながりかねない言葉使いがある場合がある。冗談のつもりで発した言葉でも、言葉使いで「言葉の虐待」になる時がある。管理者を含めて今後も注意を払うよう促していきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居相談時に、重要事項説明書を渡して説明。一問一答式で対話している。入居契約前に事前に契約書を渡して、熟読と再考を促している。</p>	<p>○</p> <p>家族との間で入居後のトラブルはないものの、誤解がある場合がある。入居後も可能な限り家族とのコミュニケーションの必要性を感じている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口責任者を設置している。また、苦情相談窓口として、県・市役所の担当部署の電話番号も、重要事項説明書に記載して紹介している。		利用者の苦情や相談は、運営者・管理者が直接、話を聞いて苦情・相談解決に取り組んでいる。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族へ発送する「友遊通信」は写真をふんだんに活用して月内の生活様子を伝えている。職員からは、手紙を家族へ発送し、利用者個々の生活様子を伝える努力を行っている。		突発的な病気の発症には、病院受診の連絡を含めて、その都度家族へ電話報告を行ってきた。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口責任者を設置している。また、苦情相談窓口として、県・市役所の担当部署の電話番号も、重要事項説明書に記載して紹介している。身近な相談事は、職員が来訪される都度、直接聞いて対応を行っている。		苦情が直接でてこないことが残念である。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、定例会議を実施している。職員からの提案や、ケアの問題協議も同時に行い、記録を残すことで交替勤務の職員全てがケアの継続・維持に努力している。また、ユニット間の情報共有に努めている。		「申し送りノート」を活用して、各職員が書き込みを行うことで、交代勤務における連絡・報告が職員に伝達できる手法を続けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の突発的な容体急変・職員の突発的な病気には、運営者が各職員へ伝達し、勤務表の変更・調整に努めている。ターミナルの家族には、勤務表や運営者の携帯番号を提供し、常に連絡・相談が取れるように工夫している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、正規社員として雇用し、就業不安を排除することに努力しているが離職希望があった場合は、可能な限り遺留の説得を行う。離職・異動に伴う職員変更の際は、業務研修期間を設定し、利用者とのコミュニケーションで顔なじみの環境作りに努めている。		離職理由は、給与・処遇(休日数や賞与等)による場合が多く、介護保険報酬の減額に伴いホーム運営の上から限界がある。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県が推奨するきくちゃん体操や、介護に関するセミナーなど、希望に応じて受講する機会を与える努力をしている。		セミナー受講は、勤務カウントする関係から現場の職員配置の上で困難を来している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	菊池・山鹿地域GH研修会に積極的に参加している。GH相互における問題点の勉強会を行ったり、相互のホーム見学・介護実務の研究・研鑽を行うよう努めている。また、GH研修会場として「地域交流場」の提供を行った。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	狭隘ながらも「休憩室」を設置し、職員相互の憩いの場とした。職員の自発的なバーベキュー会や懇親会を行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場責任者による人事考課を行い、少ないながらも賞与支給配分率で評価している。また、職種のステップアップ(国家試験)を支援している。職員の提案を尊重し、ケア向上になることで、運営者・職員相互の信頼関係作りに努めている。		職員の向上心は、「やりがいのある仕事」であることが重要だが、仕事の対価である給与・処遇面は厳しいものがある。福祉という概念だけで職員の「向上心」や、「やりがいのある仕事」とはなりにくいように思っている。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の家族等と面会し、生活背景や家族関係を十分聞き取ったうえで、本人との面会を行い、初対面時から安心感を持って頂き、自由な会話を行う中で本人の希望を引出すように努めている。		病院・リハビリ施設等の退院受入の場合は、入居までの期間がなく急を要することがある。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談時から、可能な限りの情報を聞き取り、家族の思いを受け止めるように努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体的レベルや、相談時が満室で入居困難な場合は、他のホームの住所や連絡先を紹介したり、施設への入居申込を勧めたりして、家族・本人に合った情報の提供に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居日の決定までに、本人が過ごしやすい住環境の整備を行うとともに、馴染みの家具の持ち込みや入居となるホームの説明を本人に事前にお話している(名刺渡し)。また、可能な限り馴染んで頂くために、入居時刻は、午後3時のおやつ前までに完了し、一緒におやつを食べるなどの工夫に心がけている。		在宅独居の入居相談を支援センターから受けた時は、本人の「在宅願望」が強いため無料での「通い」サービスを行い徐々に環境になれてもらう工夫を約2週間実施した。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や、地域伝統の文化やたしなみなど、昔の経験談を引き出すコミュニケーションに努力している。また、調理や食器洗いや食器拭きなど本人に役割を持って頂き、共に生活している雰囲気作りに努めている。		昨年よりも要介護度の重度化が進行し、今まで構築できた入居者との関わり方も、重度化された入居者介護のためにゆとりをもった関係にならなくなってきているが、今後も支え合う関係の構築に引き続き取り組んでいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況を家族面会時には可能な限り報告をし、必要な物事の話し合いを行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との外出機会を働きかけたり、面会支援をお願いしている。また、面会時は、ゆっくりとくつろいで頂けるように居室でお茶やお菓子のサービスを行っている。家族写真を撮影し、後日フレームに入れて渡したりしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員から「手紙」による近況報告とともに、さりげなく面会支援をお願いしている。また、レク行事計画と一緒に伝えし、出席をお願いしている。		地方新聞で報じられたGH職員からの面会要請がプレッシャーで面会しづらくなったという意見を聞いたことがある。家族それぞれの思いを考えると、現状以上の支援や働きかけは困難と判断している。要介護度の重度化に伴い、「私の顔も忘れた」と嘆かれる家族のことを思うと「また来て下さい。」との挨拶もしづらいものがある。重度化された本人の生活様子を伝えるのも基本生活が中心で介護の内容になってしまい、かえって家族の心的負担とならないか心配している。お盆や正月など自宅帰省が可能な入居者については、外泊支援を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者相互の相性を判断してテーブル配置に心がけている。		認知症軽度な方と重度の方を同じテーブルに配置している場合は時々、嫌がったり怒ったりもされるが、重度の方が風邪で寝込まれた時は心配そうに「大丈夫かい？」と職員に聞かれたことがある。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	運営者は契約が終了した家族からの電話や手紙にも気軽に返事を出している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの暮らしの中で、不満ややりたい事などをさりげなく聞き取っている。毎日の生活様子・本人の顔色や動作などから不安やイライラ感・満足感・充実感などの把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録から、家族背景・生活背景を把握し、入居前に受けていたサービス等は、担当ケアマネからの情報提供書で確認するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	身体的機能や、認知症レベル等は、入居前本人面会時にアセスメントを取り、処方されている薬の効能などから、心身状態などの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向・本人の意向を可能な限り把握して、ケース記録に基づき具体的な介護計画を作成し、家族に説明するように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎朝開催する定例会議において、ケアの方法等に変化が生じた場合は、介護計画書に朱書きで加筆しながら現状に即したケアサービスに努めている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録表に日中活動・摂食・バイタル・生活行動を記録している。また、職員からの気づきや提案があれば定例会議にかけて協議している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族面会時間に制限を設けず、いつでも何時でも面会可能としていることから仕事帰りの面会や、一緒に昼食を食べたりできる環境を作っている。		病院受診サービスに合わせて利用者の希望にそった自宅訪問支援を行っている。たばこを喫煙される利用者には、希望銘柄を調べて購入している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校・保育園との交流には、利用者の年齢や身体状況に応じた交流となるよう協力を頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要が生じれば、その都度、支援できるように努める。		身体的レベルから施設入居(特養)が利用者にとって、身体的負担が軽減される場合があり、家族の意向に沿って入居相談にいったが、現にホーム入居されているならば入居順位が先送りとなるとの回答だったことがある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要が生じれば、その都度、支援できるように努める。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携及び医療機関の協力を頂いて利用者の健康保持、適切な薬の処方を受けている。		利用者の入居前のかかりつけ医への通院を希望する場合、距離・時間等を考慮して可能な限り受診サービスを行っている。外来受診困難な利用者には、かかりつけ医の訪問にて点滴をして頂いた。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の病院にも協力医療機関となって頂き、利用者の不穏言動による処遇困難な場合は、職員・利用者の双方が相談できるように協力を頂いている。		ホーム内において、暴言・暴力行為が激しく居室内を散乱し、壁・扉をけったりたたいたりされ、職員が介護できる状況になくなった場合は、緊急入院措置に協力を頂いた。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの職員に看護師がおり、利用者の健康状態を把握し、気付きや異変を感じた時は的確なアドバイスをしている。職員からの利用者に関する健康相談にも応じている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、入院に必要な生活用具の持ち込みに協力し、生活状態や薬の処方など、ホームの情報提供を行っている。早期退院に向けて病院見舞支援を行い、顔なじみのつながりが維持・継続できるよう努めている。		花束や、色紙・千羽鶴などを職員が作り、見舞に出かけている。男性利用者の整容(ひげ剃り)が乱れている場合は、見舞時にひげそりを行った。病院での摂食が少ない時は病院看護師に相談した上でアイスクリームを購入して食べて頂いた。退院相談が家族からあった場合は、病院担当者との協議をホームが行い、早期退院に努めた。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を尊重し、ホームでの生活を希望される場合は、今後発生する課題等を協議し、場合によってはターミナル協議書を作成して医療機関への提供・協力を頂くことを事業所の方針としている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員の勤務表を家族へ提供し、また、緊急連絡体制を確保するなど、交替勤務の中にあっても職員全員が方針・手順を確認して対応するように努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームでの生活様子を情報提供し、利用者本位の住環境が可能となるよう協議する。		施設(特養)への転居が決定した利用者には、行政担当者と一緒に利用者本人に転居先となる施設の説明(安心して転居できるように)を行い、納得して頂いた。施設に対しては、利用者の心身状況を詳しく説明し、情報提供書を提示した。また、使い慣れた家具や食器の持ち込みなどをお願いした。転居前に思い出アルバムを作って贈呈した。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は、利用者個々にワンシートとして、目立たなくし、利用者に寄り添いながら見守りの中で記録するように心がけている。親しき仲でも尊敬の態度で接するように心がけている。	○	利用者の中には難聴者や、大声での会話を好まれる場合があり、全ての場面でプライバシーに配慮した対応になっていない時がある。「あうん」の呼吸・間合いでさりげなく介助できるよう努力したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	当日に着用する洋服の選択、個室での休憩、テレビ番組の決定や、テレビ番組の紹介や献立の希望など、日常生活の中で選ぶ場面作りに努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本生活はケアプランにより大まかな日課として定めてあるが、居室での休憩を好まれる方、気分により部屋食がしたい方などその日、その日の中で利用者の希望に沿って支援するように努めている。		自立された利用者は、本人の希望に沿って入浴をされている。入浴が嫌いで、テレビを見ることを好まれる利用者も気分に合わせて入浴にしている。レク行事の時間であっても、利用者が散歩したいという気持ちであれば散歩して頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>可能な限り、利用者がしたいことを引き出して支援するように努めている。重度の方の服選びは、「今日はこれにしましょうか」「今日はこの服がいいですよ」等の話しかけを行い納得・理解を得る形で支援している。訪問理容により毎月カット協力をして頂いている。</p>	<p>自宅訪問時は、利用者が自ら選んだ洋服を着て頂いている。自立されている方は、その希望のままにして頂いている。馴染みの理容を利用されたい方は、病院受診サービスに合わせて訪問支援している。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日の献立を職員が考えて利用者の好き嫌いを念頭に買物に行っている。天気の良い日は、利用者を伴って買物をしている。利用者は簡単な野菜切りや、食器拭き・食事準備や、片付けのための下膳を行い、職員は感謝する声かけで共に生活をしている雰囲気作りに努めている。</p>	<p>利用者は、自前のエプロンを着用してキッチンで一緒に食事準備をしている。おしぼりの洗濯や、テーブル拭きなど利用者がそれぞれ役割を分担して生活している。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>希望に合わせた提供を日常的に行っている。10時のおやつ、3時のおやつに限らず、本人のその時の心身状態に合わせて提供するよう努めている。</p>	<p>居室で自由に食べたい利用者の方には、居室におかしをおいている。たばこを好まれる方には専用の喫煙所で自由に喫煙していただいている。夜間にお腹がすいて眠れない方にはちょっとしたお菓子やおにぎりを作って提供している。アルコール依存症の方がいらっしゃるためお酒の提供はやめている。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表により、適時誘導に心がけている。乳製品の提供で自然排便の習慣作りに努めている。</p>	<p>加齢とともに、身体機能が低下しており、気持ちよく排便していただくために、排泄チェックに基づき処方されている下剤を調整して服用して頂いている。代謝機能・身体機能の維持を図るため毎朝の体操を日課としている。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>自立された利用者や、入浴希望の意思表示ができる利用者の方は希望に合わせて入浴をして頂いている。</p>	<p>同性による入浴介助が必要な方や、全介助が必要な方は、その日の職員配置で計画した入浴にならざるを得ない。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室での休憩や、居室でのテレビ観賞など、思い思いの生活ができるよう見守りに努めている。逆に、一人が寂しい方には相性の合う利用者同士で会話や塗り絵などで楽しんで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭きや洗濯物たみ、おしぼり洗いなど、その方のレベルに合わせた役割事をもって頂いて支援している。		自力での散歩・新聞による番組調べ・夕刊の居室届・テーブル拭き・おしぼり洗い・パズル遊び・調理手伝い・買物など、その方の役割・楽しみごとを支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、物盗られ妄想の最大の要因となるため、開設時から利用者の方のお金の所持はお断りしている。本人の希望でお金を使用するの買物は家族へ協力をお願いしている。また、利用者が希望する物品の購入は、ホーム管理金を使用している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により自力での散歩を支援している。外出・外泊は、家族へ協力をお願いしている。天気の良い日は、一緒に買物に出かけている。	○	基準配置以上のスタッフ数を確保しているが、利用者のレベルに合わせて全ての場面で事業所だけが支援することは困難である。家族への働きかけに努力したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ピクニックレクや花見レクを利用者を伴って支援している。地域行事である運動会やクリスマス発表会に利用者を伴って参加している。	○	家族ミニ旅行などに取組たいが、何よりも家族協力が必要となる。検討したい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望により、電話支援を行っている。		以前、手紙を書いて頂く支援レクを行ったが、難しかった。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限がなく、いつでも面会可能としており、面会時は、居室でお茶やお菓子を提供してゆっくりくつろいで頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないということを、事業所全体で考えて取り組んでいる。		座位維持が困難で、身体の傾斜が著しい方には、車椅子からの転落防止のため、車椅子テーブルを装着している。ベッドからの転落事故防止のため、重度の方の就眠時には床にマットレスをしいている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は利用者本人に任せており職員がかけることはない。玄関は、職員の目が届かないため、危険防止のため中から外へは電気ロックを行っている。外からの訪問は、自由にできるようにしている。		発作的に外へ出ようとされる方がおり、玄関ドアはやむなくロックしている。居室は、間違っ鍵をかけられ外へ出られなくなった利用者がおられ、その方の居室ドアは逆に鍵がかからないように工夫している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	生活空間の中心にキッチンを設置しているため、常に利用者の動作を見守るように工夫している。夜間は、定時に訪室し様子の把握に努めている。		身体機能低下が著しい方のケアを行っている際は、軽度の方の多動を見守れない場合がある。スタッフ数の限界を感じている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	あくまでも、施設と違った住居空間を提供することに心がけている。レベルに合わせて居室でハサミやカミソリを使用される方には、本人の希望により居室で預かって頂いている。薬は手が届かない場所で一括管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬事故防止のため、利用者個々に週間分薬ケースで管理し、服薬介助者氏名を記録するように工夫している。事故・未然事故にかかわらず「ひやりはつと報告書」を作成し、改善策・対処策を協議している。また、内容は運営推進会議にも報告し、家族との共有に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者急変に対しては、応急手当マニュアルを常備している。	○	定期的訓練ができていない。全職員が訓練できるように努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全電化システムにより火災発生は考えられにくいですが、消防法以上の消火器を配置し、火災に備えている。緊急通報システムを設置している。	○	定期的訓練ができていないため、全ての場面で職員が身に付けている訳ではない。団地・温泉・保育園に隣接しているため地域の人たちとの交流が必要であり、交流の機会を作っているが応援体制を求めてきた訳ではないため、今後、働きかけたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居前に、職員の配置数や夜間体制の説明を行う中で、入居予定者の身体的レベル等を協議し、その際のリスク等も協議している。居室の環境整備でリスク軽減を図るため家族に対しては、その都度、話し合っている。		重度の方の場合は、ベッドからの転落事故緩和のため就寝時にはフロアにマットレスを敷いている。ベッドから自力離床される方は、離床時の起きあがりを容易にするため木製ベッド柵を作成して取り付けている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックで、健康管理を行っている。本人の顔色・状態・排便・排尿の状態を常に職員は見えており、体調異変に気付いた場合は、すぐに報告し、送送りを行うように努めている。状態によっては、病院受診を行っている。		必要に応じて、採尿・採便を行ったり、介護記録表をフルに活用して、詳細記録に努力している。介護スタッフに看護師がおりアドバイスを求めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の介護ファイルに看護サマリーや、服薬処方箋がファイリングされているため、職員は把握している。		入居にあたって、新しく処方された薬により利用者の状態に異変を感じた場合は、薬の副作用を考慮し、医療機関へ相談の上、服薬を中止した。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため、乳製品を提供している。また、毎朝の日課である体操で身体機能維持に努めている。場合によっては、腹圧マッサージを施行するように努めている。		身体機能の低下にともない便秘されるため、排泄チェック表に基づいて排便コントロールを処方された下剤で行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯ブラシ・歯間ブラシ・スポンジブラシを使用し、口腔内の状態・利用者の状態でケア、支援を行っている。		訪問歯科の協力で、歯の治療はもとより、口腔ケアも行ってもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録表で摂食評価を行っており、利用者個々の摂取栄養を大まかに把握できる工夫をしている。水分は、定時(食事・午前10時・午後3時)及びスポットで提供することで、1日の摂取水分量を把握するよう努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを常備している。ノロウイルス対策として、毎食前には塩素系漂白剤を使用したおしぼりで手を拭いてもらっている。利用者家族の同意を得て、インフルエンザ予防接種を毎年受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	アルコール洗浄液及びEM菌液を使用して抗菌・消毒に努めている。水回りは、清潔を保つように努めている。		EM菌液は、生活空間の全域で使用可能なため、リビング・トイレでも使用している。また、冬場は、乾燥しやすいためリビングの空間噴霧を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外壁がないことで、近隣住民も入りやすい環境を作っている。玄関前には花壇やスロープにはプランター(季節による)をおいて緊張感をほぐす工夫をしている。目印となり、法人(沖繩)をイメージできるシーサーを建物壁面に飾り付けている。		シーサーの謂われは、神社にある狛犬の「あうん」と、同じ意味合い(「あ形」は、幸福を呼び込み、「うん形」は、魔を寄せ付けない)があり、初めての来訪者には会話の切出しやきっかけとなり、法人の地域性も理解して頂いている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通に家庭で使用されている調度品を配置することで、居心地の良い生活感があるものになっている。季節に合った工芸品や習字、正月飾りやクリスマス飾りなどで季節を感じて頂く工夫をしている。また、隣接する保育園児童の笑い声で、プールの遊びをしていたり、運動会のお遊戯であったり、季節行事も聞き取れるようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	地域交流広場には、机・椅子がおいてあり、ホームのアルバムがあることで、写真を広げて見て頂いたり、テレビを見て頂くことができる工夫をしている。リビングのソファは気があった利用者が一緒にテレビを見たりできるように工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家庭で使っていた家具を持ち込んで頂くように家族にお願いしており、布団やタンス・テレビなどを運んで居室へ持ち込んで頂いている。	○	持ち込んで頂いたタンスでは、収納できず、床においてある日用品があり居室全体が散らかって見える場合がある。収納家具の持ち込み又は簡易収納ケースの購入を今後、家族と協議したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビング及び居室は、換気扇を稼働している。また、エアコンによる室温管理に注意している。天気が良い日は、窓を開放し、空気の入れ換えに努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニバーサルデザインに配慮した建築設計であり、手すりやフラット床となっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表札や顔写真を居室に飾ったり、トイレの標識を貼り付けて混乱がないように工夫している。		他居室の開閉や自室ドアの開閉音に苦情があった際は、自室をカーテンにして本人の混乱を防止し、他者からの苦情が出ないよう工夫した。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関口の花壇や家庭菜園に利用者を伴って栽培・収穫・植え付け作業を行っている。ベランダのプランター栽培を季節によって行っている。		収穫した野菜をその日の献立に活かして食べて頂いている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームにおける行事や利用者の生活様子について写真を活用した「友遊通信」の定期発行で家族は、いながらにして入居者の生活様子や表情を知って頂ける。職員から家族へあてて書いている手紙「友遊宛便り」は、顔なじみの関係作りとなりながら家族・職員がともに入居者を支え合う力になるように取り組んでいる。(毎月の通信と手紙を楽しみにされている家族もいらっしゃる。)職員は、業務時間外でも次回のレク行事の企画を考えたり、工作レクのアイデアや準備をするなど、入居者に対して献身的姿勢で取り組んでいる。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人久仙会 たしま友遊苑
(ユニット名)	2Fユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県 菊池市 泗水町 田島 616-1
記入者名 (管理者)	谷口 勇一 (ホーム長)
記入日	平成19年12月25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自に「地域(人)に愛されるホーム」を理念として心がけてきた。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービス事業所として、地域に根ざした事業所になるよう、独自の夏祭りを開催するなどして、地域交流に努めてきた。特に、保育園・小学校児童との交流には、学校長先生や保育園長先生の協力を頂いた。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関入口に、理念はもとより、重要事項説明書の掲示を行うとともに、毎月の行事計画も展示して周知努力を行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	温泉施設の方や、団地の方などの挨拶に心がけている。独自の夏祭りには、チラシを団地内の各家庭へ配布し、たしま友遊苑の認知度向上・地域交流に努めている。	団地の方には、あまり興味がないようでなかなか、お茶のみに立ち寄るとか気軽な来訪にはなっていない。また、玄関口に地域交流広場を設けているが、レク活動以外時は、無人となるため、立ち寄り難い面があるのかもしれない。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域交流広場を自治会会場として提供している。また、来訪者にはお茶などのサービスを行っている。地域行事には可能な限り利用者を伴って参加している。また、パチンコ屋さんのボランティア案内でパチンコ祭りには、現役当時大好きだった利用者に参加して頂いた。	身体的レベル・認知症レベルで全ての利用者・職員が地域行事に参加することができない。また、小規模での交替勤務では、地域行事参加に対して弾力的な対応(職員配置勤務表と行事案内のタイムラグ)は困難である。
6	<input type="checkbox"/> 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域社協との連携で家族介護教室への会場提供及び参加をしてきた。新たに発足される地域支援活動の発足セミナーに参加してきた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価勉強会を行い、全ての職員の意見反映及び意見集約・運営者から見る評価の協議を行った。また、改善項目は、運営推進会議にも図り、可能なものについて改善するよう努めてきた。</p>	<p>○</p> <p>経費が発生するものは、家族負担ともなり、できない面がある。運営推進会議への家族参加と、改善すべき問題点の家族共有が課題である。(部屋が散らかっている・収納ケースが不足・購入には経費がかかる・同意が得られない・居室内の立入を拒む利用者等の課題) 家族からの協力及び家族への働きかけに努力したい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営会議では、サービスの内容を詳細な資料として作成配布して話し合っている。また、外部評価結果・指摘事項・改善項目・外部評価時の様子など、運営推進会議で報告し、家族意見も集約した。</p>	<p>○</p> <p>スタッフ数の限界・家族からの意見が少ない(遠慮されている)などで、全てをくみ上げてサービス向上に活かされるとは限らない。検討したい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に行政担当者も構成委員になってもらっている。可能な限り行き来するよう努めている。また、指定研修の申込には、行政サイドに相談にのって頂き、協力と理解を頂いている。</p>	<p>運営者・管理者を含む全ての職員が介護業務を兼務しているため、窓口となっていていつでも動ける環境にない。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>運営者が相談窓口となっている。成年後見人制度手続では、書類作成を協力した。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会・セミナーがあれば積極的に参加を促す。特に、管理者や相談員の職責にいる者は現場責任者であることを自覚し、注意するよう促している。</p>	<p>○</p> <p>職員にその気持ちがあるわけではなくても、言葉の暴力につながりかねない言葉使いがある場合がある。冗談のつもりで発した言葉でも、言葉使いで「言葉の虐待」になる時がある。管理者を含めて今後も注意を払うよう促していきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居相談時に、重要事項説明書を渡して説明。一問一答式で対話している。入居契約前に事前に契約書を渡して、熟読と再考を促している。</p>	<p>○</p> <p>家族との間で入居後のトラブルはないものの、誤解がある場合がある。入居後も可能な限り家族とのコミュニケーションの必要性を感じている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口責任者を設置している。また、苦情相談窓口として、県・市役所の担当部署の電話番号も、重要事項説明書に記載して紹介している。		利用者の苦情や相談は、運営者・管理者が直接、話を聞いて苦情・相談解決に取り組んでいる。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族へ発送する「友遊通信」は写真をふんだんに活用して月内の生活様子を伝えている。職員からは、手紙を家族へ発送し、利用者個々の生活様子を伝える努力を行っている。		突発的な病気の発症には、病院受診の連絡を含めて、その都度家族へ電話報告を行ってきた。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口責任者を設置している。また、苦情相談窓口として、県・市役所の担当部署の電話番号も、重要事項説明書に記載して紹介している。身近な相談事は、職員が来訪される都度、直接聞いて対応を行っている。	○	苦情が直接でてこないことが残念である。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、定例会議を実施している。職員からの提案や、ケアの問題協議も同時に行い、記録を残すことで交替勤務の職員全てがケアの継続・維持に努力している。また、ユニット間の情報共有に努めている。		「申し送りノート」を活用して、各職員が書き込みを行うことで、交代勤務における連絡・報告が職員に伝達できる手法を続けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の突発的な容体急変・職員の突発的な病気には、運営者が各職員へ伝達し、勤務表の変更・調整に努めている。ターミナルの家族には、勤務表や運営者の携帯番号を提供し、常に連絡・相談が取れるように工夫している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、正規社員として雇用し、就業不安を排除することに努力しているが離職希望があった場合は、可能な限り遺留の説得を行う。離職・異動に伴う職員変更の際は、業務研修期間を設定し、利用者とのコミュニケーションで顔なじみの環境作りに努めている。		離職理由は、給与・処遇(休日数や賞与等)による場合が多く、介護保険報酬の減額に伴いホーム運営の上から限界がある。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県が推奨するきくちゃん体操や、介護に関するセミナーなど、希望に応じて受講する機会を与える努力をしている。		セミナー受講は、勤務カウントする関係から現場の職員配置の上で困難を来している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	菊池・山鹿地域GH研修会に積極的に参加している。GH相互における問題点の勉強会を行ったり、相互のホーム見学・介護実務の研究・研鑽を行うよう努めている。また、GH研修会場として「地域交流場」の提供を行った。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	狭隘ながらも「休憩室」を設置し、職員相互の憩いの場とした。職員の自発的なバーベキュー会や宴会を設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	責任者による人事考課を行い、少ないながらも賞与支給配分率で評価している。また、職種のステップアップ(国家試験)を支援している。職員の提案を尊重し、ケア向上になることで、運営者・職員相互の信頼関係作りに努めている。		職員の向上心は、「やりがいのある仕事」であることが重要だが、仕事の対価である給与・処遇面は厳しいものがある。福祉という概念だけで職員の「向上心」や、「やりがいのある仕事」にはなりにくいように思ってしまう。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の家族等と面会し、生活背景や家族関係を十分聞き取ったうえで、本人との面会を行い、初対面時から安心感を持って頂き、自由な会話を行う中で本人の希望を引出すように努めている。		病院・リハビリ施設等の退院受入の場合は、入居までの期間がなく急を要することがある。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談時から、可能な限りの情報を聞き取り、家族の思いを受け止めるように努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体的レベルや、相談時が満室で入居困難な場合は、他のホームの住所や連絡先を紹介したり、施設への入居申込を勧めたりして、家族・本人に合った情報の提供に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居日の決定までに、本人が過ごしやすい住環境の整備を行うとともに、馴染みの家具の持ち込みや入居となるホームの説明を本人に事前にお話している(名刺渡し)。また、可能な限り馴染んで頂くために、入居時刻は、午後3時のおやつ前までに完了し、一緒におやつを食べるなどの工夫に心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や、地域伝統の文化やたしなみなど、昔の経験談を引き出すコミュニケーションに努力している。また、調理や食器洗いや食器拭きなど本人に役割を持って頂き、共に生活している雰囲気作りに努めている。		昨年よりも要介護度の重度化が進行し、今まで構築できた入居者との関わり方も、重度化された入居者介護のためにゆとりをもった関係にならなくなってきているが、今後も支え合う関係の構築に引き続き取り組んでいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況を家族面会時には可能な限り報告をし、必要な物事の話し合いを行っている。		運営者は、相続問題や、家族問題があった時は一緒に相談に入って問題解決の努力を行っている。ターミナル期にある方には家族面会支援を働きかけて、職員とともに思い出作り支援を行った。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との外出機会を働きかけたり、面会支援をお願いしている。また、面会時は、ゆっくりとくつろいで頂けるように居室でお茶やお菓子のサービスを行っている。家族写真を撮影し、後日フレームに入れて渡したりしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員から「手紙」による近況報告とともに、さりげなく面会支援をお願いしている。また、レク行事計画を一緒にお伝えし、出席をお願いしている。		地方新聞で報じられたGH職員からの面会要請がプレッシャーで面会しづらくなったという意見を読んだことがある。家族それぞれの思いを考えると、現状以上の支援や働きかけは困難と判断している。お盆や正月など自宅帰省が可能な入居者については、外泊支援を行っている。家族と電話がしたいという入居者の希望を聞き入れ電話支援を要請している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者相互の相性を判断してテーブル配置に心がけている。		食器拭きや簡単な野菜切りは、入居者同士でテーブルを囲んで協働して行ってもらっている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	運営者は契約が終了した家族からの電話や手紙にも気軽に返事を出している。		法事の挨拶の手紙があった際は、退室された居室のあとの様子やその後の入居のことなどを手紙にして返事した。とても喜ばれ再度、電話での御礼の返事を頂いた。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの暮らしの中で、不満ややりたい事などをさりげなく聞き取っている。毎日の生活様子・本人の顔色や動作などから不安やイライラ感・満足感・充実感などの把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録から、家族背景・生活背景を把握し、入居前に受けていたサービス等は、担当ケアマネからの情報提供書で確認するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	身体的機能や、認知症レベル等は、入居前本人面会時にアセスメントを取り、処方されている薬の効能などから、心身状態などの把握に努めている。	○	家事手伝いが可能だった利用者も加齢とともに認知症レベル・身体レベルが低下しつつあり、より良い暮らし方の提供と支援に悩んでいる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向・本人の意向を可能な限り把握して、ケース記録に基づき具体的な介護計画を作成し、家族に説明するよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎朝開催する定例会議において、ケアの方法等に変化が生じた場合は、介護計画書に朱書きで加筆しながら現状に即したケアサービスに努めている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録表に日中活動・摂食・バイタル・生活行動を記録している。また、職員からの気づきや提案があれば定例会議にかけて協議している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族面会時間に制限を設けず、いつでも何時でも面会可能としていることから仕事帰りの面会や、一緒に昼食を食べたりできる環境を作っている。		利用者が希望する買物品を聞き取り、毎日の買物で対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校・保育園との交流には、利用者の年齢や身体状況に応じた交流となるよう協力を頂いている。		家族間財産トラブルが発生した際は、所轄警察署へ家族とともに相談に行き地域派出所の協力を頂くよう要請し、承諾もらった。ターミナル期にある利用者の救急搬送等については、所轄消防署へ事前に情報提供を行い協力をあおいでいる。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要が生じれば、その都度、支援できるように努める。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要が生じれば、その都度、支援できるように努める。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携及び医療機関の協力を頂いて利用者の健康保持、適切な薬の処方を受けている。		ターミナル期の利用者には、週2回の点滴往診の協力を頂いた。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の病院にも協力医療機関となって頂き、利用者の不穏言動による処遇困難な場合は、職員・利用者の双方が相談できるように協力を頂いている。		利用者の被害妄想が激しく易怒性が強くなれば介護職員に暴力をふるわれた時は、診察・相談の協力を頂いた。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの職員に看護師がおり、利用者の健康状態を把握し、気付きや異変を感じた時は的確なアドバイスをしている。職員からの利用者に関する健康相談にも応じている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、入院に必要な生活用具の持ち込みに協力し、生活状態や薬の処方など、ホームの情報提供を行っている。早期退院に向けて病院見舞支援を行い、顔なじみのつながりが維持・継続できるよう努めている。		花束や、色紙・千羽鶴などを職員が作り、見舞に出かけている。病院での摂食が少ない時は病院看護師に相談した上でアイスクリームを購入して食べて頂いた。個人で購入されている新聞を見舞時に届けたりした。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を尊重し、ホームでの生活を希望される場合は、今後発生する課題等を協議し、場合によってはターミナル協議書を作成して医療機関への提供・協力を頂くよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員の勤務表を家族へ提供し、また、緊急連絡体制を確保するなど、交替勤務の中にあっても職員全員が方針・手順を確認して対応するように努めている。		ターミナル期にある利用者の身体的状況を踏まえて、家族とともに、自宅訪問支援や生まれ住んだ実家への訪問支援を行い、利用者の思い出作りを行った。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームでの生活様子を情報提供し、利用者本位の住環境が可能となるよう協議する。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は、利用者個々にワンシートとして、目立たなくし、利用者に寄り添いながら見守りの中で記録するように心がけている。親しき仲でも尊敬の態度で接するように心がけている。	○	利用者の中には難聴者や、大声での会話を好まれる場合があり、全ての場面でプライバシーに配慮した対応になっていない時がある。「あうん」の呼吸・間合いでさりげなく介助できるよう努力したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	当日に着用する洋服の選択、個室での休憩、テレビ番組の決定や、テレビ番組の紹介など、日常生活の中で選ぶ場面に努めている。		買物を頼まれる利用者には、希望の物を探して来ている。腰痛でマッサージを希望される場合は、訪問可能なマッサージ師を探している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本生活はケアプランにより大まかな日課として定めてあるが、居室での休憩を好まれる方、気分により部屋食がしたい方などその日、その日の中で利用者の希望に沿って支援するように努めている。		自立された利用者は、本人の希望に沿って入浴をされている。入浴が嫌いな方は、気分に合わせて入浴にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>可能な限り、利用者がしたいことを引き出して支援するように努めている。重度の方の服選びは、「今日はこれにしましょうか」「今日はこの服がいいですよ」等の話しかけを行い納得・理解を得る形で支援している。訪問理容により毎月カット協力をして頂いている。</p>	<p>自宅訪問時は、利用者が自ら選んだ洋服を着て頂いている。自立されている方は、その希望のままにして頂いている。馴染みの理容を利用されたい方は、家族の協力を頂いて理容をされている。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日の献立を職員が考えて利用者の好き嫌いを念頭に買物に行っている。天気の良い日は、利用者を伴って買物をしている。利用者は簡単な野菜切りや、食器拭き・食事準備や、片付けのための下膳を行い、職員は感謝する声かけで共に生活をしている雰囲気作りに努めている。</p>	<p>毎日の食器拭きや簡単な野菜切りをテーブルを囲んで行っている。洗濯物をたたんだり、一緒に下膳したりして、本人の役割や分担をもって頂き生活を支援している。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>希望に合わせた提供を日常的に行っている。10時のおやつ、3時のおやつに限らず、本人のその時の心身状態に合わせて提供するよう努めている。</p>	<p>希望により居室でのお茶の提供や希望されたお菓子の提供をしている。牛乳を自分の生活習慣といっている方には、本人の希望に合わせて提供している。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表により、適時誘導に心がけている。乳製品の提供で自然排便の習慣作りに努めている。</p>	<p>加齢とともに、身体機能が低下しており、気持ちよく排便していただくために、排泄チェックに基づき処方されている下剤を調整して服用して頂いている。代謝機能・身体機能の維持を図るため毎朝の体操を日課としている。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>自立された利用者や、入浴希望の意思表示ができる利用者の方は希望に合わせて入浴をして頂いている。</p>	<p>同性による入浴介助が必要な方や、全介助が必要な方は、その日の職員配置で計画した入浴にならざるを得ない。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室での休憩や、居室でのテレビ観賞など、思い思いの生活ができるよう見守りに努めている。逆に、一人が寂しい方には相性の合う利用者同士で会話や塗り絵などで楽しんで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ、おしぼり洗いなど、その方のレベルに合わせた役割事をもって頂いて支援している。		うさぎの世話・食器拭き・朝刊の居室届・居室テレビ・台ふき・プランターなど、その方の役割事や楽しみごとを支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、物盗られ妄想の最大の要因となるため、開設時から利用者の方のお金の所持はお断りしている。本人の希望でお金を使用するの買物は家族へ協力をお願いしている。一部利用者のみ、お金を所持されており、買物時に受け取って代わりに買物をしたことがあるが、現在は、ホーム管理金を使用して、利用者の希望する物品の購入を行うようにしている。		物盗られ妄想で利用者・職員間に不信感がでると、解決に苦慮する。また、一旦、思いこまれると家族を含めて三者協議を行ったが納得されることはなかった。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により自力での散歩を支援している。外出・外泊を希望される方には、家族へ協力をお願いしている。	○	基準配置以上のスタッフ数を確保しているが、利用者のレベルに合わせて全ての場面で事業所だけが支援することは困難である。家族への働きかけに努力したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ピクニックレクや花見レクを利用者を伴って支援している。地域行事である運動会やクリスマス発表会に利用者を伴って参加している。	○	家族ミニ旅行などに取組たいが、何よりも家族協力が必要となる。検討したい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望により、電話支援を行っている。		以前、手紙を書いて頂く支援レクを行ったが、難しかった。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限がなく、いつでも面会可能としており、面会時は、居室でお茶やお菓子を提供してゆっくりくつろいで頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないということを、事業所全体で考えて取り組んでいる。		ベッドからの転落があり、脚力も衰えている一方で自力で起床されようとされる方には御家族の同意を得て2点ベッド柵を装着した事があったが、本人の意思を尊重しすぐに中止した。また、自力での立ち上がりを可能とするベッド柵に作り直して生活頂いている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は利用者本人に任せており職員がかけることはない。玄関は、職員の目が届かないため、危険防止のため中から外へは電気ロックを行っている。外からの訪問は、自由にできるようにしている。		発作的に外へ出ようとされる方がおり、玄関ドアはやむなくロックしている。居室は、間違っって鍵をかけられ外へ出られなくなった利用者がおられ、その方の居室ドアは逆に鍵がかからないように工夫している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	生活空間の中心にキッチンを設置しているため、常に利用者の動作を見守るように工夫している。夜間は、定時に訪室し様子の把握に努めている。		身体機能低下が著しい方のケアを行っている際は、軽度の方の多動を見守れない場合がある。スタッフ数の限界を感じている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	あくまでも、施設と違った住居空間を提供することに心がけている。レベルに合わせて居室でハサミやカミソリを使用される方には、本人の希望により居室で預かって頂いている。薬は手が届かない場所で一括管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬事故防止のため、利用者個々に週間分薬ケースで管理し、服薬介助者氏名を記録するように工夫している。事故・未然事故にかかわらず「ひやりはっと報告書」を作成し、改善策・対処策を協議している。また、内容は運営推進会議にも報告し、家族との共有に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者急変に対しては、応急手当マニュアルを常備している。	○	定期的訓練ができていない。全職員が訓練できるように努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	全電化システムにより火災発生は考えられにくいですが、消防法以上の消火器を配置し、火災に備えている。緊急通報システムを設置している。	○	定期的訓練ができていないため、全ての場面で職員が身に付けている訳ではない。団地・温泉・保育園に隣接しているため地域の人たちとの交流が必要であり、交流の機会を作っているが応援体制を求めてきた訳ではないため、今後、働きかけたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居前に、職員の配置数や夜間体制の説明を行う中で、入居予定者の身体的レベル等を協議し、その際のリスク等も協議している。居室の環境整備でリスク軽減を図るため家族に対しては、その都度、話し合っている。		ベッドから自力離床される方は、起きあがりを容易にするように木製のベッド柵を作成している。ポータブルトイレへの移動時の転倒防止のため自力排泄可能なベッド柵を作成して取り付けている。転倒が心配される利用者にはベッド下にセンサーマットを取り付けている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックで、健康管理を行っている。本人の顔色・状態・排便・排尿の状態を常に職員は見えており、体調異変に気付いた場合は、すぐに報告し、送送りを行うように努めている。状態によっては、病院受診を行っている。		必要に応じて、採尿・採便を行ったり、介護記録表をフルに活用して、詳細記録に努力している。介護スタッフに看護師がおりアドバイスを求めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の介護ファイルに看護サマリーや、服薬処方箋がファイリングされているため、職員は把握している。		利用者の心身状況から精神科を受診し、処方された薬の服用開始以後、生活様子を見守り異変を感じた際には、服薬中止を医師に相談して中止した。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため、乳製品を提供している。また、毎朝の日課である体操で身体機能維持に努めている。場合によっては、腹圧マッサージを施行するように努めている。		身体機能の低下にともない便秘されるため、排泄チェック表に基づいて排便コントロールを処方された下剤で行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯ブラシ・歯間ブラシ・スポンジブラシを使用し、口腔内の状態・利用者の状態でケア、支援を行っている。		訪問歯科の協力で、歯の治療はもとより、口腔ケアも行ってもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録表で摂食評価を行っており、利用者個々の摂取栄養を大まかに把握できる工夫をしている。水分は、定時(食事・午前10時・午後3時)及びスポットで提供することで、1日の摂取水分量を把握するよう努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを常備している。ノロウイルス対策として、毎食前には塩素系漂白剤を使用したおしぼりで手を拭いてもらっている。利用者家族の同意を得て、インフルエンザ予防接種を毎年受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	アルコール洗浄液及びEM菌液を使用して抗菌・消毒に努めている。水回りは、清潔を保つように努めている。		EM菌液は、生活空間の全域で使用可能なため、リビング・トイレでも使用している。また、冬場は、乾燥しやすいためリビングの空間噴霧を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外壁がないことで、近隣住民も入りやすい環境を作っている。玄関前には花壇やスロープにはプランター(季節による)をおいて緊張感をほぐす工夫をしている。目印となり、法人(沖繩)をイメージできるシーサーを建物壁面に飾り付けている。		シーサーの謂われは、神社にある狛犬の「あうん」と、同じ意味合い(「あ形」は、幸福を呼び込み、「うん形」は、魔を寄せ付けない)があり、初めての来訪者には会話の切出しやきっかけとなり、法人の地域性も理解して頂いている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通に家庭で使用されている調度品を配置することで、居心地の良い生活感があるものになっている。季節に合った工芸品や習字、正月飾りやクリスマス飾りなどで季節を感じて頂く工夫をしている。また、隣接する保育園児童の笑い声で、プール遊びをしていたり、運動会のお遊戯であったり、季節行事も聞き取れるようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	地域交流広場には、机・椅子がおいてあり、ホームのアルバムがあることで、写真を広げて見て頂いたり、テレビを見て頂くことができる工夫をしている。リビングのソファは気があった利用者が一緒にテレビを見たりできるように工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家庭で使っていた家具を持ち込んで頂くように家族にお願いしており、布団やタンス・テレビなどを運んで居室へ持ち込んで頂いている。	○	持ち込んで頂いたタンスでは、収納できず、床においてある日用品があり居室全体が散らかって見える場合がある。収納家具の持ち込み又は簡易収納ケースの購入を今後、家族と協議したい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビング及び居室は、換気扇を稼働している。また、エアコンによる室温管理に注意している。天気が良い日は、窓を開放し、空気の入れ換えに努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニバーサルデザインに配慮した建築設計であり、手すりやフラット床となっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	表札や顔写真を居室に飾ったり、トイレの標識を貼り付けて混乱がないように工夫している。		夜間帯にリビングで放尿される利用者には、さりげなくトイレへの誘導を行うとともに、汚染カーペットは、その都度洗浄し、防臭・抗菌の対応を行っている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関口の花壇や家庭菜園に利用者を伴って栽培・収穫・植え付け作業を行っている。ベランダのプランター栽培を季節によって行っている。		ベランダでうさぎの餌用として野菜を栽培されている利用者は、収穫の都度、うさぎに与えている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームにおける行事や利用者の生活様子について写真を活用した「友遊通信」の定期発行で家族は、いながらにして入居者の生活様子や表情を知って頂ける。職員から家族へあてて書いている手紙「友遊宛便り」は、顔なじみの関係作りとなりながら家族・職員がともに入居者を支え合う力になるように取り組んでいる。(毎月の通信と手紙を楽しみにされている家族もいらっしゃる。)職員は、業務時間外でも次回のレク行事の企画を考えたり、工作レクのアイデアや準備をするなど、入居者に対して献身的姿勢で取り組んでいる。